

審査の結果の要旨

氏名 ニクラ・ヴィジェイ

本研究はスラムに焦点を当て、インドの事例に関しての詳細な議論をおこなっており、以下の三つの事柄が主眼となっている。

①スラム改善のための政策と事業を研究すること、

②基盤整備、開発プロジェクト、故郷への帰還などの様々な視点へと導くコミュニティの認知と理解のレベルの決定、

③スラムの類型化によって、スラムの成長管理や都市部におけるの将来的な構築を目的とした、目標改善メカニズムと重要な要因・戦略の認知。

本研究では、スラム改善と成長管理に関して、需要側と供給側の双方の視点に立って分析をおこなっており、需要側であるサステナビリティと生活水準の視点としては、コミュニティの役割、および選択と満足度のレベルに着目している。供給側の視点としては、行政官、政策担当官、専門家、有識者などへのインタビューから、最も脆弱な部分を特定するためのスラム居住地の類型化を用いた開発における、意思決定の重要性を導き出した。本研究ではまた、スラムの形成要因に着目し、都市中心部のスラムにおける成長管理とチェックのための施策の提案をおこなっている。

実際の研究にあたって、「目標の改善」「コミュニティの要望と需要の理解」「スラムの成長管理」を目的とし、100万都市及びボーパール市内の17のスラム居住区に住む796世帯への調査をおこなった。それに加え、50以上のスラムへの現地調査とコミュニティとのグループディスカッションと意見交換を実施した。供給側の評価に関しては、16人の専門家、研究者、政策担当との計画的なインタビューをおこなっている。

分析の結果、スラムの類型化が、あらたに「コア型 (C)」「中間型 (D)」「過渡型 (A)」「良好型 (B)」の4種に分けられることが判明した。類型化の指標は「意志の能力」と「構造的階級」である。「意志の能力」とは、コミュニティが一心同体となり、完全な経済・社会的活動への参加をおこなう可能性を測る指標であり、「構造的階級」とは、社会経済的、基礎的な基盤の多寡と障害に関する指標である。この類型は、改善のための優先的目標として設定すべき、最も脆弱な都市空間を特定することと、スラム地区のリストの中からいくつか (Bに分類されるもの) を除外することを可能にするものである。

大多数が貧困基準 (BPL) 以下の水準で暮らす C 分類 (コア型) のものは「脱貧困型処置」が、A 分類と D 分類 (過渡型と中間型) では「スラム改善型処置」が、既に改善がなされておりスラムとは認識されないような B 分類 (良好型) では「市への合併処置」が、それぞれ必要であると結論付けられた。実際、インドの4都市 (ボーパール、インドール、グワーリヤル、ジャバプール) のスラム居住区における既往研究では、現在、非衛生的か

つ最低水準の環境で生活し、早急な対応が必要な住民は全スラム居住人口の 15%以下であること、状態良好なスラムはおおよそ 20~30%程度であること、そしてそれらがインナーシティに存在していること、が明らかになった。

本研究では、居住者の要望と需要への更なる理解に加え、コア貧民層（インド都市の 15%以下である）に利益を届ける事を可能とさせる、「目標設定メカニズム」を提案している。また本研究は、発展途上国であるインドを対象とすることで、スラム形成の要因を明確化し、その成長管理のための対策を提示しているが、インドに限らず、スラム問題に苦しむ他の発展途上国においても適用できる可能性を有している。本研究は、限られた資源の有効的活用を手助けするバックグラウンドを供給する事で、コア貧民層に利益を届け、それらの要望と需要をもっと良い方法で理解することを目的とする。また、本研究のスラムの形成要因に関する分析と議論は、それぞれの国におけるスラムの成長と形成の管理において、一つの方向性を提示することのできるものである。

以上のとおり、本研究は、とくに、インドを対象として、スラム地域の類型化について事例分析を通じて新たな手法を提案し、優れた学術的価値を有している。さらに、その分析を通じて今後の改善のための有益な提言を行っている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。